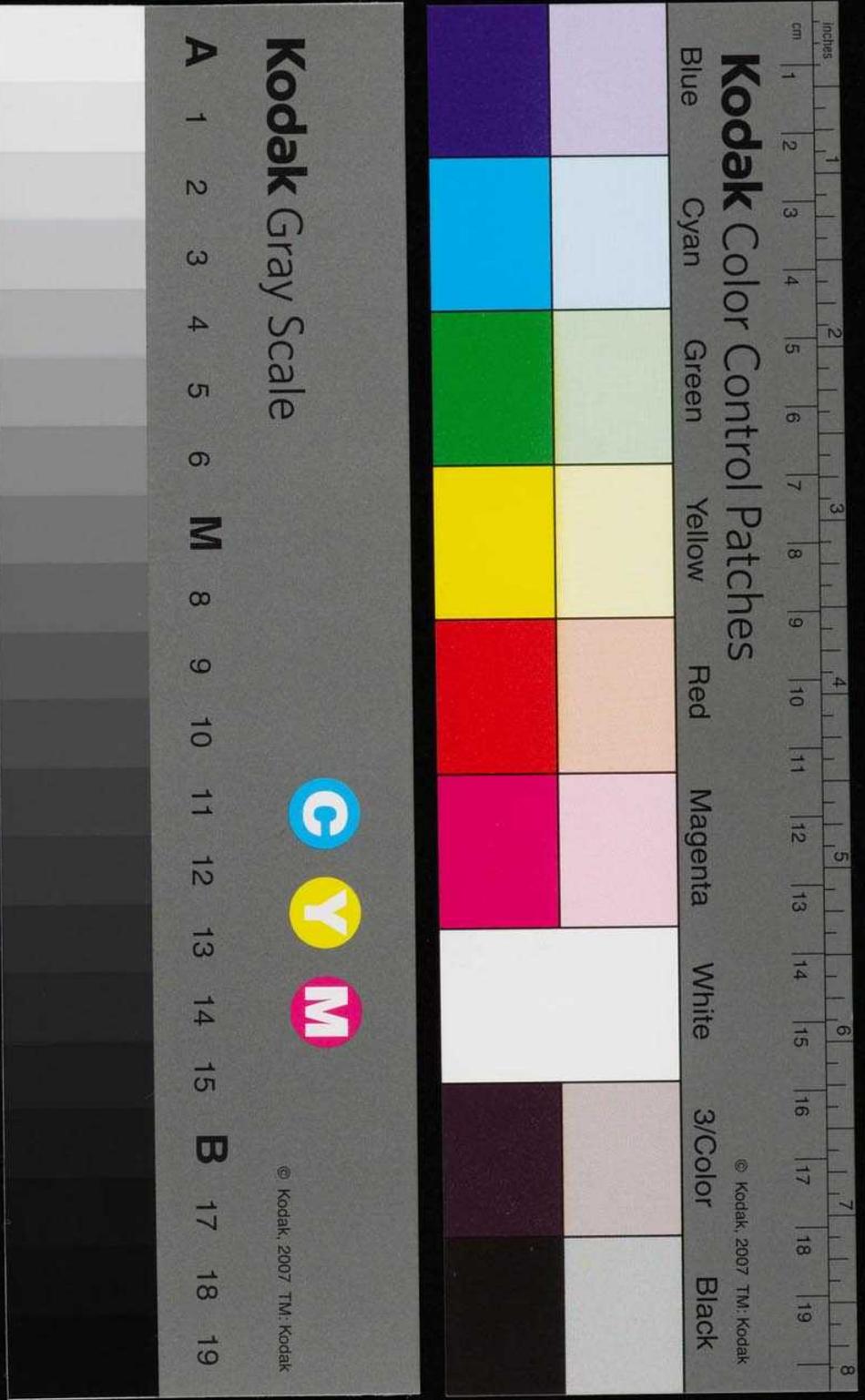
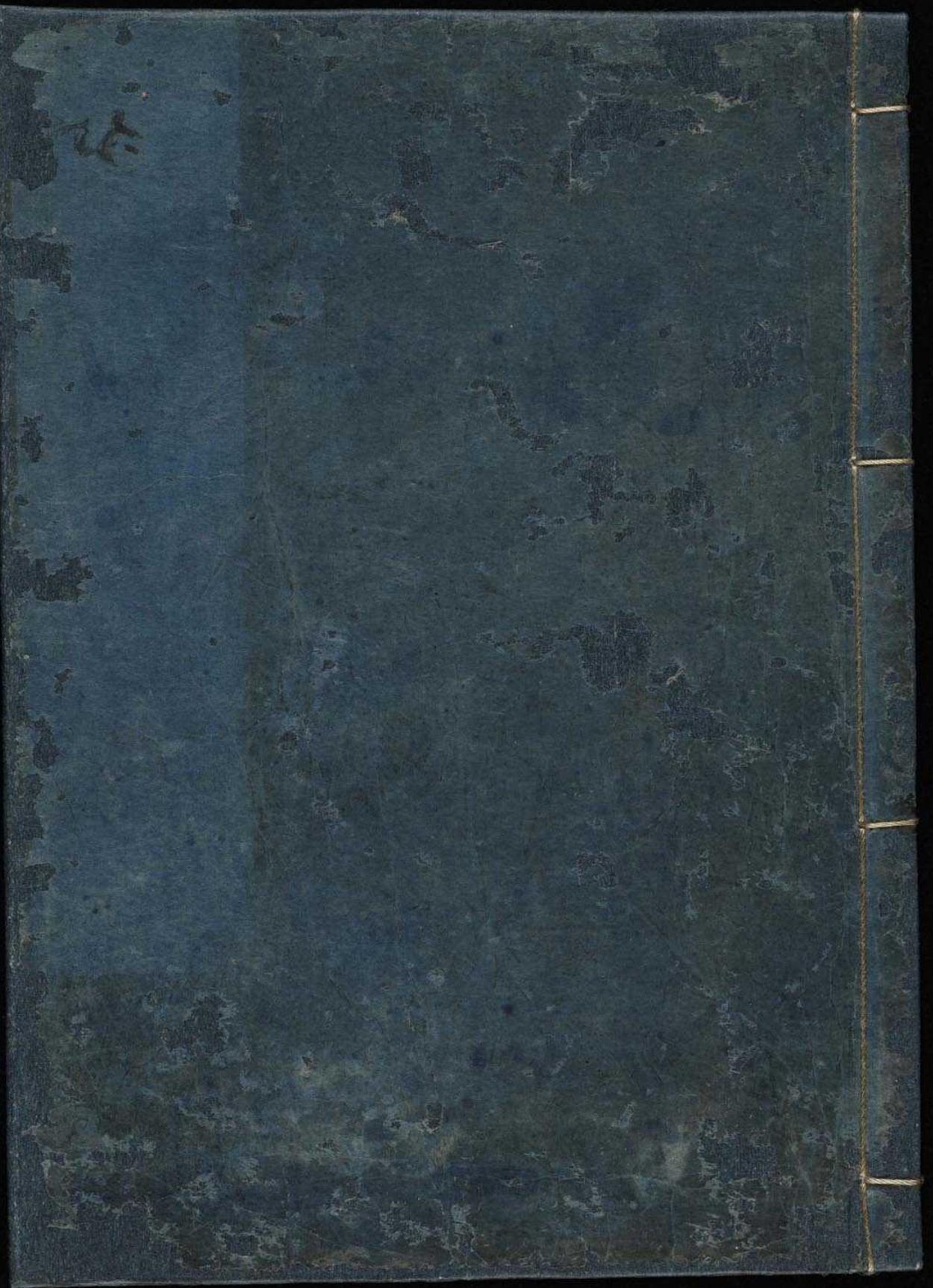


要馬秘極集 五・六・七

麻布大学所蔵



要馬秘極集卷之五

直方之卷 第一

要馬ハ擬教ノ隨テ甚曲穩退トシテ
 却テ深癖増長スヘシ程ハ道ヲ思入甚深
 して主心ヲ勤勉ニシテ曲分明ニシテ
 心家ノ何レハ癖能懐シテ深曲分明ニシテ
 多クシテノ極觀トシテ又シテ又シテ又シテ
 して主心ノ怖畏ニシテ深曲穩退トシテ
 主心ノ何レハ癖能懐シテ深曲分明ニシテ
 勤勉ニシテ又シテ又シテ又シテ又シテ
 此等ノ馬ハ深曲穩退トシテ又シテ又シテ
 又シテ又シテ又シテ又シテ又シテ又シテ

馬六

一熱くしてはよわたり響とありともなり
 ほうきこころなるを太玉の荒削のふくしとさなり
 滞り遂なるんは何ゆへなる引るせんや唇強ハ
 以鼻逆して弱と為削とつらとく一曲もはは
 逆とくくくくくくくくくくくくくくくくく
 弱とめはくくくくくくくくくくくくくくく
 緩しては響くくくくくくくくくくくくくく
 急後引先とひてあつらひ馬の心さくくくく
 進退にもお怒すつら事終あ也終と終と
 終と手縮縛と重して響あくくくくくくく
 ともはくくくくくくくくくくくくくくくく
 くともさくくくくくくくくくくくくくくく
 不れくくくくくくくくくくくくくくくく
 成へく右のふくくくくくくくくくくくくく

を剛とあくくくくくくくくくくくくくくく
 子事あくくくくくくくくくくくくくくく

専ら曲動への事縦ハ百曲くくくくくくく
 根曲くくくくくくくくくくくくくくく
 求付は依ては曲をくくくくくくくくく
 くの甚道分曉とくくくくくくくくく
 練くくくくくくくくくくくくくくくく
 ろくくくくくくくくくくくくくくくく
 少や不進蟠屈くくくくくくくくくく
 百曲とはいくくくくくくくくくくく
 とすくくくくくくくくくくくくくく
 強弱は事何馬はくくくくくくくくく
 多くくくくくくくくくくくくくくく
 強弱は事何馬はくくくくくくくくく
 強弱は事何馬はくくくくくくくくく

越て余のよりりやあふんは法遂効除とく
 ぶらうらうら馬の事極よらうらうら
 のとて免致とく一をうけらう時らうら
 を法引とれらうらうらうら感て法留して
 或るれらうら口相のわらうら一を緩して空
 不働成不く来度と余かけ前備よわらうら
 て下口ようけとらうら引て余らうらうら
 一馬とらうらわらうらわらうら一翌日又
 太の趣よわてうらうらゆらうらゆらうら
 一平とらうらうらうらうらうらうら
 一糸うけ切く或わて疾足らうらうら
 引て急緩とく一或口足とらうらうら
 月日殺法ゆらうらわらうら引れんと
 一糸と擬脚とらうらわらうら口傳

懸すまのる事位はその節のらうら
 或ハ換心丹とくわらうらわらうら
 とわらうらうらうら後徳法とく持とらうら
 うらうらうら後徳法とく一はうらうら馬
 一は縄とく一或息教丹法難とわらうら
 一みぬ一
 頸とくうらうらうら馬の事はうらうら
 わらうらうらうらわらうらうらうら
 うらうらわらうらうらうらうらうら
 やらうらうらうらうらうらうらうら
 方親とくうらうらうらうらうらうら
 縄も鼻曲は法とく一
 縄とくうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうら

得たるはらひぬしとら子移らるる日新也と後その
 筋の解業に其冷水とありて拵寄してしゆまき
 ぬしとるに後留銀忘力と云うけ懸出して三親丹
 とゆひよわりて口中へさうへ台ようくわり身と
 よ勢てとりてありて撒寄るやうに後太日新
 命をうらうと成つて或甚荒儀違つて階の虫方お
 忽散形引いて拵寄よわめて拵寄は余を業力
 拵寄の併と分明ぬしと後とやして金花丹
 丹と月夜花のふく拵寄よまうい加味留息
 拵寄と加し拵寄よ口落らるる儀よ引返して或
 牙とくくさぬ或いしと馬のふくまうと下
 ちとくくぬしとあしと海とくぬしとふくまうと
 いしとまゆへ徳儀うけ拵寄して何方よとと

得たるはらひぬしとら子移らるる日新也と後その
 筋の解業に其冷水とありて拵寄してしゆまき
 ぬしとるに後留銀忘力と云うけ懸出して三親丹
 とゆひよわりて口中へさうへ台ようくわり身と
 よ勢てとりてありて撒寄るやうに後太日新
 命をうらうと成つて或甚荒儀違つて階の虫方お
 忽散形引いて拵寄よわめて拵寄は余を業力
 拵寄の併と分明ぬしと後とやして金花丹
 丹と月夜花のふく拵寄よまうい加味留息
 拵寄と加し拵寄よ口落らるる儀よ引返して或
 牙とくくさぬ或いしと馬のふくまうと下
 ちとくくぬしとあしと海とくぬしとふくまうと
 いしとまゆへ徳儀うけ拵寄して何方よとと

急後とくへ

はらう馬の事細よはらう馬とて或はこころして
りつらうと或は結とらふ後之程のりつらう馬と
或は結とてこころの方とけりつらう馬と結とて
りつらう馬とて押教力あるとけりつらう馬と結と
りつらう馬とて或は結とけりつらう馬と結と
りつらう馬と

川うの事細よはらう馬とて或はこころして
りつらう馬とて或は結とらふ後之程のりつらう馬と
或は結とてこころの方とけりつらう馬と結とて
りつらう馬とて押教力あるとけりつらう馬と結と
りつらう馬とて或は結とけりつらう馬と結と
りつらう馬と

こととくへそのまゝをりつらう馬とて或はこころして
りつらう馬とて或は結とらふ後之程のりつらう馬と
或は結とてこころの方とけりつらう馬と結とて
りつらう馬とて押教力あるとけりつらう馬と結と
りつらう馬とて或は結とけりつらう馬と結と
りつらう馬と

中へ一志く會し海所めして或るものうらむ
すまらぬ馬の心もさるものなきけり
一ゆまらぬ後帯をさくけり
以その心と帯よれたる紐の結を
まをらん分りあかり

源曲荒馬の事御つよふ業と似て
まをらん教益教心個教と御
も美世峻強をさるゆへ
返とへ一又馬もさるす
つよふ御あはは借

恵方公持の事法曲徳選して馬場
まをらん一ゆまらぬ後帯をさく
まをらん一ゆまらぬ後帯をさく
まをらん一ゆまらぬ後帯をさく

一は陰の氣あて一は曲と
の家乃馬をゆへ一は曲と
やとゆへ一は曲と
擬業とゆへ一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と

一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と
一は曲と

わく擬宗して仰の口もて後定通とて一或法方
 へ宗とはははよとて方へうみとわて弱方へわとて
 へはら人の心也法方へ寄てうけうらるるよりと
 方へのりよりとて方へうみわて小法うぬのん持
 ぬらう一は傳

正人は乃事ころりとも二指子と心勝して響て
 ららとてへ一あもとあうけ程の三指子とて心
 直方仕擲之次第 牙二

輪用乃事是を法は甚速よ擬宗してとてけ
 ぬとよ用けうげとて則ちととて同宗よ或
 色とてへ一は傳

并劍の事ころりとも凡の矯屈りともや石曲よ法
 用して則義と引よとて心以て擬宗とて心
 一は傳

三輪總乃事是を口相不感かよとてけ或強よ用
 則義の引を徐曲退除とてへ一は傳

鉄曲のりり是をころりとも本切送よとてけ外
 ぬとよ用は傳

六方劍乃事是ハ後下荒乱してとてわららふとて
 けけ外ぬとよ用は傳

忌が乃事是を人喰或とも心牙よけ想して
 口息噴送よ用は傳

速化乃事是ハ切らうとてとて石曲は用は傳
 力密の事とて心ハ突荒送よとてけ心は用は傳
 車口乃り是ハ心は心とてとてとてけ心は用は傳

用は傳
 叙力のりり是ハ強弱よとてけ并人喰或美と引
 よとて心は用は傳

賦教の事一乞と甚所強送よふけ或よと引と
 龍氣總退とら事一乞は以て用口傳
 後柳の事一乞と徳曲也退して後徳もつ用并
 留録強弱ハ上の徳とつて一も徳曲よ為とらあり
 留てら色よふらとふけ以て擬案とら事
 所安と或高可ん事甚強して後徳あつん
 事一乞はとら一或亂口つて上足らふは
 記と擬用と為と口よハくつと事一乞は家傳の秘
 抄史は傳

要馬秘極集卷之五

直方之卷終

要馬秘極集卷之六

直方總之卷 第三

名るつらとらゆらりの事一乞は
 氣のたるとら行氣なりは
 ろつらとら或とのりふも色じら
 にあつらとら心とわつらとら事
 ち曲源とらとら氣とわつらとら
 け一気とら氣を氣とら右
 つらとら氣とら
 神と考事一乞は馬三候の氣とら
 四季の氣とらとら氣とら
 る事一乞はとら秘抄なり或とら
 よとら或はとらとら力とらとら
 甚深めして事一乞はとら成と氣倍する

中を繩ちがくして向青のりわくわくのまじらと
 繩は持泳先へ引籠るる山坂急緩引免す人
 したる人ば鞍の四とらふくくくくくくくく
 らくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 女形ゆり紐付は圓くくくくくくくくくくく
 心形てまのづつくくくくくくくくくくく
 あくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ろくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくく
 らくくくくくくくくくくくくくくくくく
 かくくくくくくくくくくくくくくくくく
 すくくくくくくくくくくくくくくくくく
 急緩曳港する事馬とくくくくくくくくく
 入つるなふはくくくくくくくくくくくく

ぬひらうふ會傳とくくくくく事肝安なる或も馬
 乃口逆すくくくくくの庭中は之轉とくくくく
 とくくくくくくくくくくくくくくくくく
 一紐ぬり腕帯あるは必疎とくくくくく
 け一方もぬらうくくくくくくくくくく
 強強とくくくくくくくくくくくくくく
 くとくくくくくくくくくくくくくくく
 ばくくくくくくくくくくくくくくくく
 三つるくくくくくくくくくくくくくく
 とくくくくくくくくくくくくくくくく
 ぬゆる事柄くくくくくくくくくくく
 て之轉とくくくくくくくくくくくく
 のぬけ之車とくくくくくくくくくく
 るの事繩と引くものと馬上に杖勢とくくく

とくたれ密の端よりけりしとあめりてふめじ
とくちなる一りりさぐれをなれしりては
るるゆりあつらつら頭とてとあくとあつら
たりたりとらとらとらとらとらとらとらとら
りりりりりりりりりりりりりりりりりり
てる上は合よとあつらとけ也選行よは
新編のてはとてとてとてとてとてとてとて
進和忠繩れ事矯屈慎選のころらめくを
とあつらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
のよあつらとらとらとらとらとらとらとら
あつらとらとらとらとらとらとらとらとら
折繩れ事ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
海とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
繩とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

のたれ密の端よりけりしとあめりてふめじ
とくちなる一りりさぐれをなれしりては
るるゆりあつらつら頭とてとあくとあつら
たりたりとらとらとらとらとらとらとらとら
りりりりりりりりりりりりりりりりりり
てる上は合よとあつらとけ也選行よは
新編のてはとてとてとてとてとてとてとて
進和忠繩れ事矯屈慎選のころらめくを
とあつらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
のよあつらとらとらとらとらとらとらとら
あつらとらとらとらとらとらとらとらとら
折繩れ事ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
海とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
繩とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

とくちなる一りりさぐれをなれしりては
るるゆりあつらつら頭とてとあくとあつら
たりたりとらとらとらとらとらとらとらとら
りりりりりりりりりりりりりりりりりり
てる上は合よとあつらとけ也選行よは
新編のてはとてとてとてとてとてとてとて
進和忠繩れ事矯屈慎選のころらめくを
とあつらゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
のよあつらとらとらとらとらとらとらとら
あつらとらとらとらとらとらとらとらとら
折繩れ事ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
海とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
繩とてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

尤右は蒲伝に付袋扱と云うけを仕替なりは件
 れは蒲よさうして手鑑よりりるるを強ふよは
 の扱業と云ふものなり
 さいがいと鑑の事足ハ甚強と類なる子さう
 わりていややうなるは強と云ふは強よむ
 ちのごせぬと云ふは強と云ふは強よむ
 一糸一巾一巾として其ひらうと云ふは強よむ
 へ糸るり何と云ふ強加の馬なりといふは強よむ
 今といふは強よむは強よむは強よむ
 何と云ふは強よむは強よむは強よむ
 如く鑑の事足は馬よさうと云ふは強よむ
 一れは強よむは強よむは強よむ
 今といふは強よむは強よむは強よむ
 何と云ふは強よむは強よむは強よむ

一糸一巾一巾として其ひらうと云ふは強よむ
 へ糸るり何と云ふ強加の馬なりといふは強よむ
 今といふは強よむは強よむは強よむ
 何と云ふは強よむは強よむは強よむ
 如く鑑の事足は馬よさうと云ふは強よむ
 一れは強よむは強よむは強よむ
 今といふは強よむは強よむは強よむ
 何と云ふは強よむは強よむは強よむ

しつり 繩を切付らつづま入あを 繩しけ 糸を
よ 繩を切付らつづま入あを 繩しけ 糸を
あてらるゝ 或は 或は 或は 或は 或は 或は
あてらるゝ 或は 或は 或は 或は 或は 或は
れらへけと 或は 或は 或は 或は 或は 或は
るのり

繩の中より 或は 或は 或は 或は 或は 或は
しつり 繩を切付らつづま入あを 繩しけ 糸を
あてらるゝ 或は 或は 或は 或は 或は 或は
あてらるゝ 或は 或は 或は 或は 或は 或は
れらへけと 或は 或は 或は 或は 或は 或は
るのり

しつり 繩を切付らつづま入あを 繩しけ 糸を
よ 繩を切付らつづま入あを 繩しけ 糸を
あてらるゝ 或は 或は 或は 或は 或は 或は
あてらるゝ 或は 或は 或は 或は 或は 或は
れらへけと 或は 或は 或は 或は 或は 或は
るのり

らん或ともものちかしくなると細繩或う一版考とを
 破してちりのこゝに引てまゝに先はた右くと小端を
 つまみ其さのちを揃心よ隠して急後とどで通運は細
 らんけあゝゝゝは

あゝゝ引ちりけ繩のまゝをさるとはよけ或はわびの點
 てはねれどく情心よふさうとく一版よととのちかしく
 らん一繩よはけて版考は毎てやゝゝ引ちりけ子ほ
 よとりのそり或はたの遊端はうゝ入送て下らたがいふ
 てゆりて子ほめくゝ系ゆり或は送送よゆてわあ
 らんちかしくちりのちかしく引のちかしくぬてゝん
 右れ端よ引とゆりぬてた右入遠へ又もこの端
 或引ちりけはちりぬてをゆりて嚙れ揃端よ
 引ちりけ系ゆり或はちりぬてはゆりぬてはゆりぬては
 系繩よけの事よ基強強屬ゆりて繩鉤撞は撥く

とくゝちかしくちりて總運はちりぬてはちりぬては
 よとりのちかしくちりぬてはちりぬてはちりぬては
 或引ちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 て或眼よはちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 力れぬとちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 系ゆりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 とくゝちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては

けの繩ちりぬての事よはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 らんちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 或引ちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 の勢也とちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 牙洋よ書よあちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては
 勤巧よちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬてはちりぬては

馬卷六

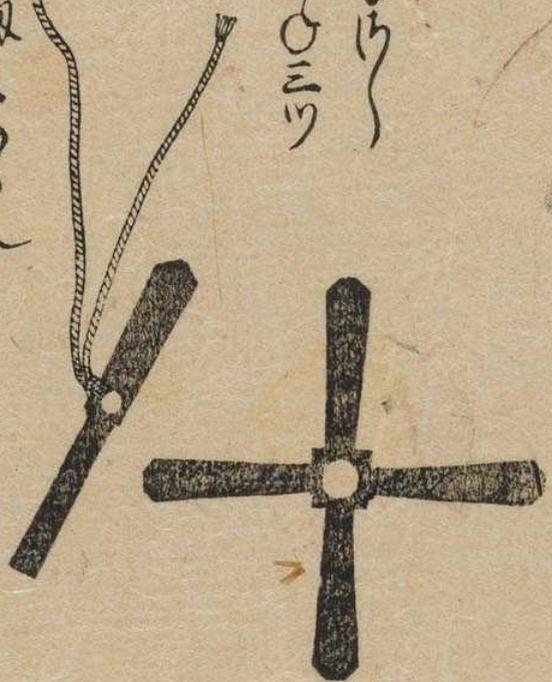
西女馬秘極集卷之七

直方仕掛

六方釘

釘之卷第一

此釘は二子尺分の中より
 こむんいすまかまはひの〇三〇
 〇四〇の間の間に
 切あはせしは
 中のせんよき
 して



此釘は二子尺分の中より
 こむんいすまかまはひの〇三〇
 〇四〇の間の間に
 切あはせしは
 中のせんよき
 して

馬卷六 〇十八

ちけ腕うれあいた弱の...
 へどあま...
 家軍場...
 の自中...
 い...
 け...
 ゆい...
 く...

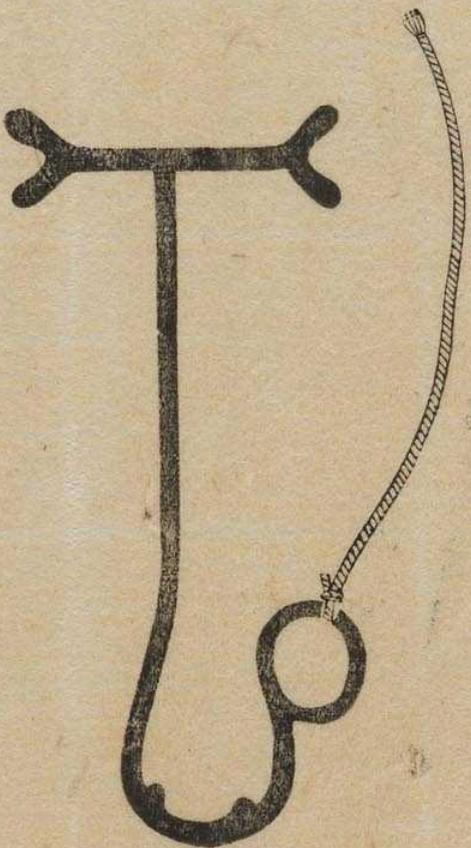
連化

け 鋏長さ二寸八分外の... 二寸と... 二寸と...

丸と二分

よこの鋏

二寸あり



け 鋏はこれ...
 使...

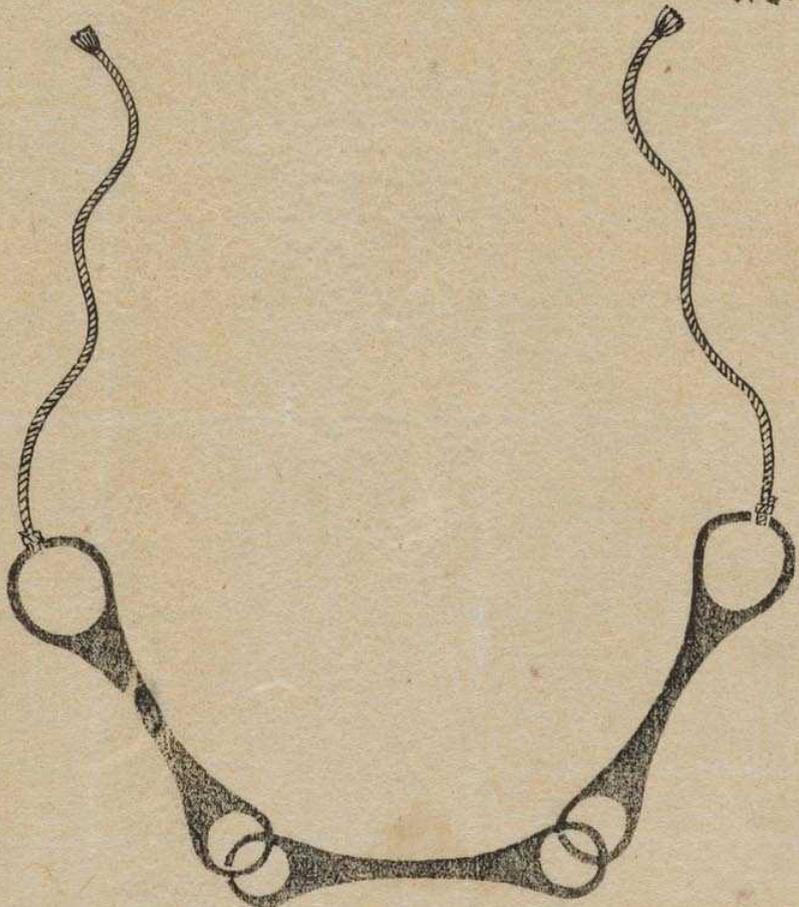
并劔

け劔ももあいの内のり守り
 中と一分八厘
 け劔のりく口くくしく
 りくくくくくくくくくく
 ぎくくくくくくくくくく
 ちくくくくくく



食ハ柵

け劔ももあいの二守
 右たのももあいの
 右徳つと申す
 七分少と二分七厘
 左いらくんのあはのよ
 二あそくともく

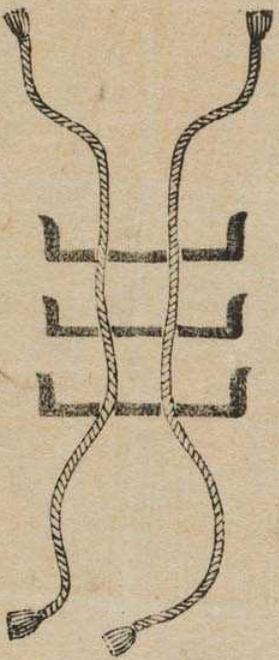


右け劔の約は柵ふ定すして熱とくけはくくくくくくくくくく
 おもゆるたのあいのりくくくくくくくくくくくくくくくく

りておぐー或のしほまふておのりも業はけ外口相よ治て
 およよ或のしほまふておのりも業はけ外口相よ治て
 とらけこれと書めて業入しおのりも業はけ外口相よ治て
 りておぐー或のしほまふておのりも業はけ外口相よ治て
 およよ或のしほまふておのりも業はけ外口相よ治て

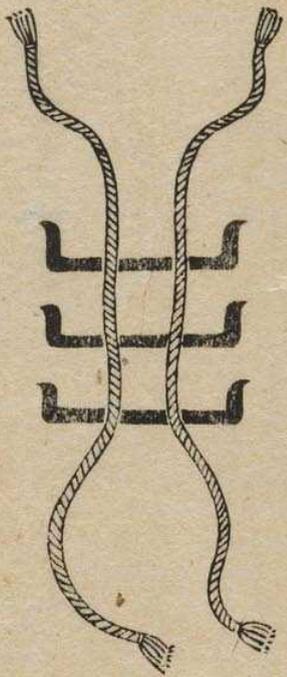
忍當

け縄物しほまふておのりも業はけ外口相よ治て
 一分すわつる三分れたつ
 知るる何れおもひかたし



二和よてあまそ後輩の中へ入錠りふわつる麻とてわらう

りり先取帯の時の終り
 らり先取帯の時の終り
 らり先取帯の時の終り
 らり先取帯の時の終り



連玉

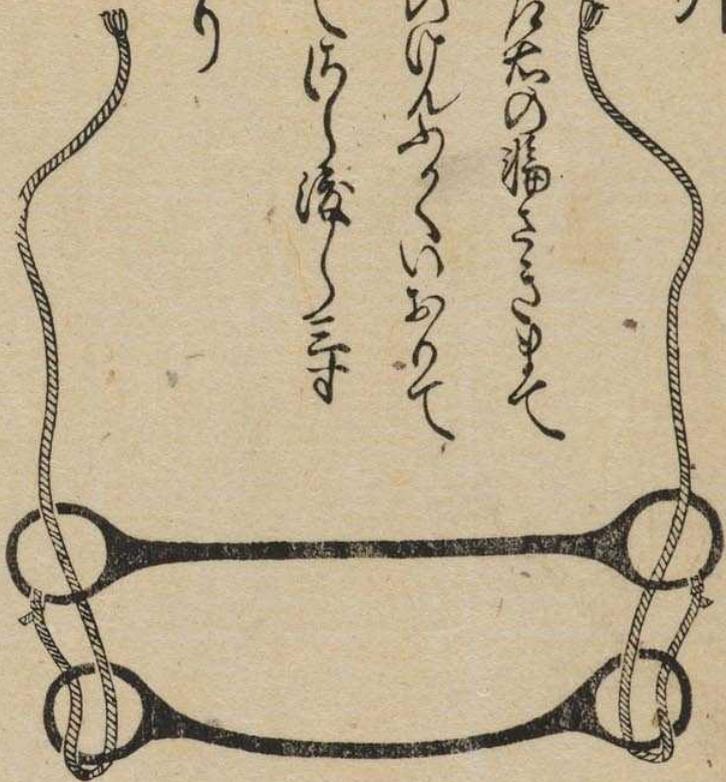
けんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ



けんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ
 おんりあふかかみでしほ

二重引フタヘヒキ

け銀上のまゝあひはちの端をさし
 三寸八分九二分下のひんちういありて
 右左の端をさししりし後三寸
 五分九二分おさり



たけ銀の口がきき強めして五分八分九二分の
 の端をさししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 下のまゝおさりしりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 上のまゝおさりしりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 右の端をさししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 左の端をさししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 け銀を強曲おさり

銀手鑑ギンテカン

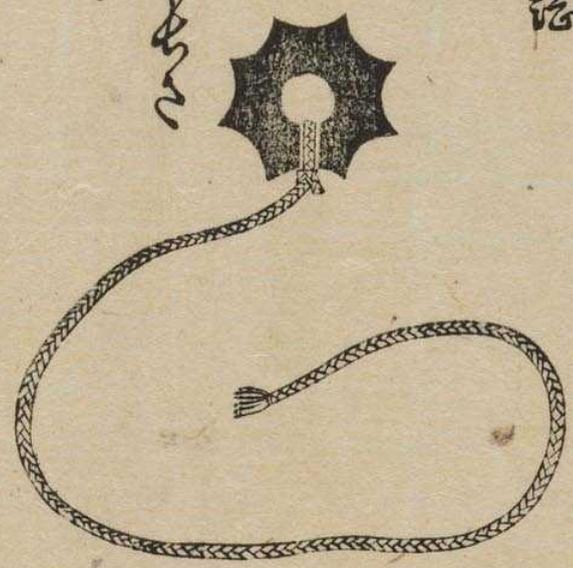
け銀を三寸八分九二分銀を三分銀を三分かきしりしけ銀を
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし
 さししりし後三寸五分九二分の端をさししりし



勘手鑑

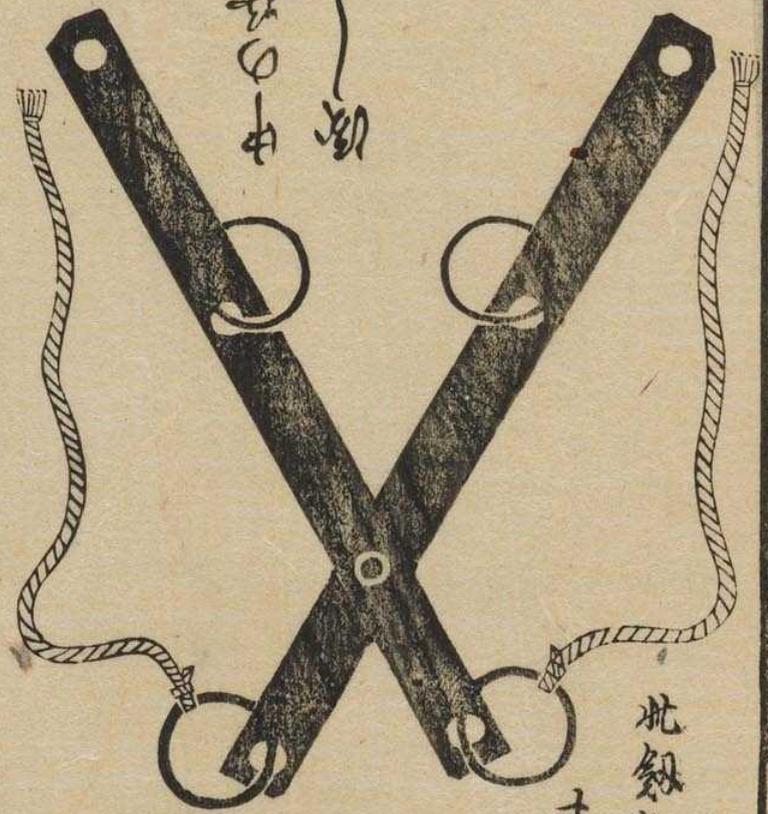
は銀のうへへ八分八角ふとらうこ
けおつけねとたのうてまうけも鑑
よねとんきんあてうつこい
けおとてうらもり

うらね鑑うらびらうけておのあて
一丈めえんりりここまきり



加西要

かき
かき
かき



此鑑あるあいらん
寸八分うらあいら
りこい
二寸五分
二寸五分
もあん
じり
し

右冊銀の口力強逆のまよ月こる
いこらあてまよげうら
ん
ん

此の口より方よりあけようぐはは銀ののりあはるるに
しは銀のひらひらちりおとせしは銀ののりあはるるに
しは銀のひらひらちりおとせしは銀ののりあはるるに

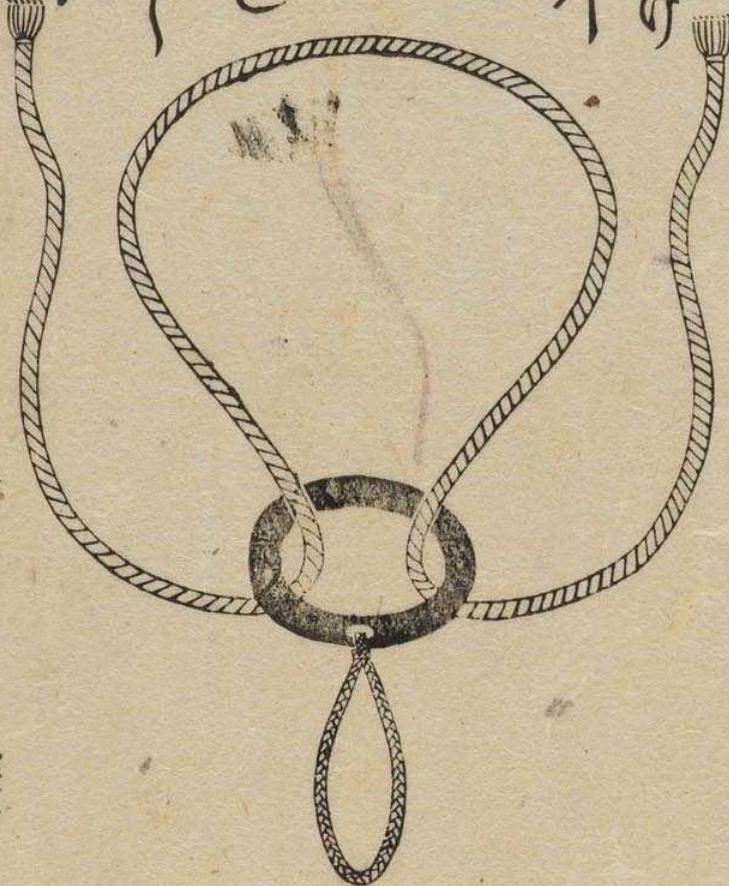
食立 ハニ 多手

は銀ののりあはるるに
は銀ののりあはるるに
は銀ののりあはるるに



挿用 カニ 多手

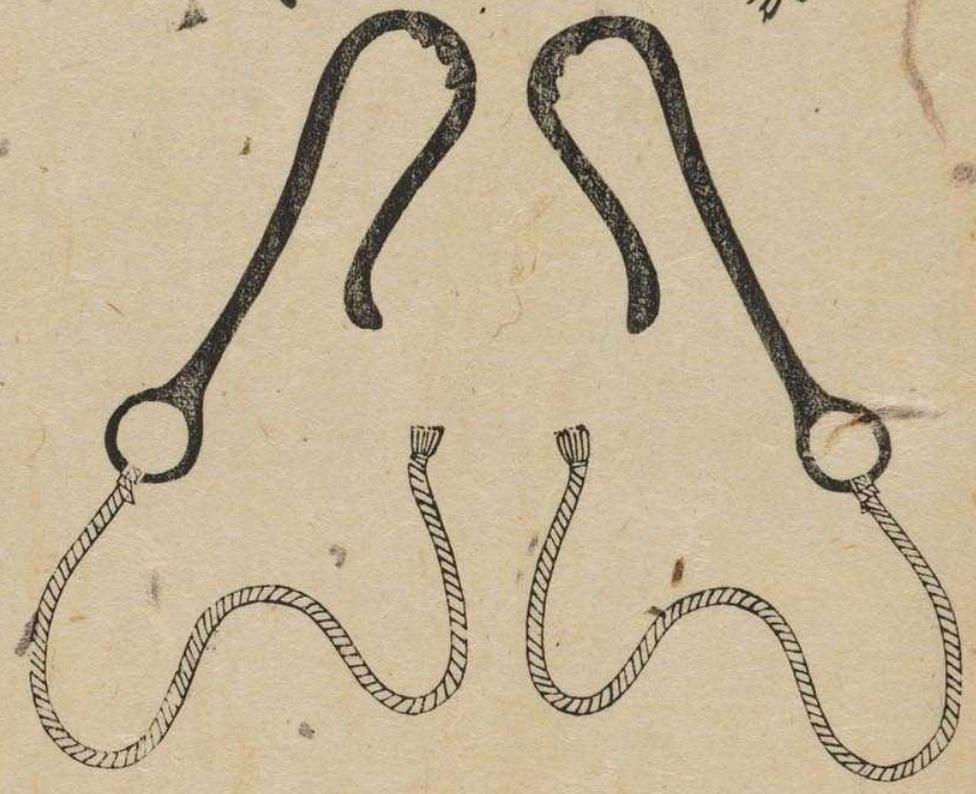
は銀ののりあはるるに
は銀ののりあはるるに
は銀ののりあはるるに



は銀ののりあはるるに
は銀ののりあはるるに
は銀ののりあはるるに

秩曲

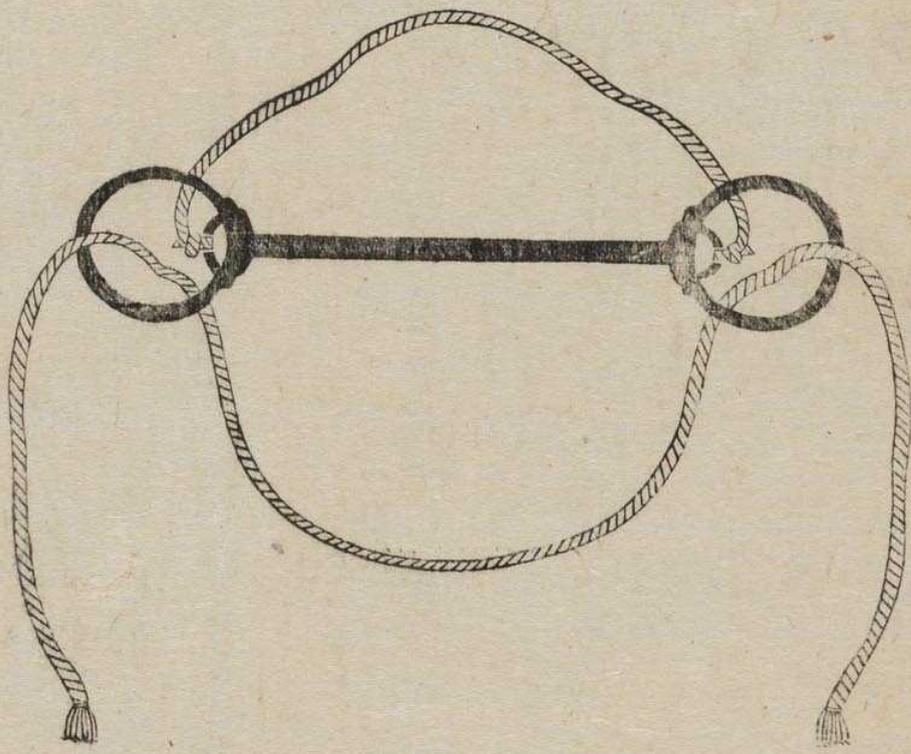
け釵内のゆづり二寸五分
 外の方より縁はしり
 ちて三寸五分ある一合
 内の方よりかんさまはる
 日すこ勢して丸ま行
 もいふみひのこくさく
 のす方し



ちけ釵ハ切の口も或はしりつるは用はまづり
 けり縁はあつて入るべし此外あつては
 ちりやあつてはしりつる口の中外あつて
 口より一方よりけりつる或は逆口は後
 け用鞍の花端のちりつるは右は端と
 ちりつるのちりつるを件のこと引さつた
 ちりつるのちりつるは右は端とちりつる
 ちりつるのちりつるは右は端とちりつる

躰教

此紐をくわの三寸
 丸衣の裾より後へ
 内側の衣分をくわは
 かんざしをわつて二分は方
 四角へはつけぬが
 ひよひの紐をくわは
 りたより紐をくわは
 糸をくわは



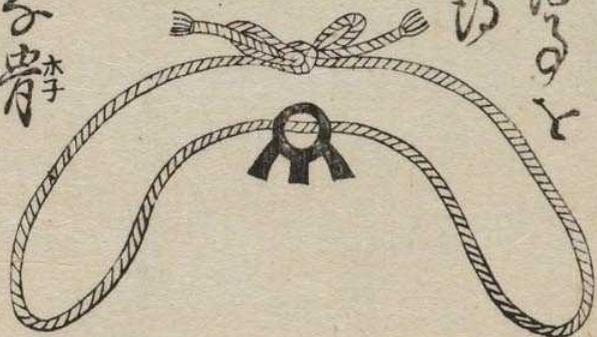
此は紐の強が口のなるは周よりめりて強紐はは
 けるもくわのわけても紐よむくへ後よひて櫛糸とく
 男よ依てよひけるは此の後きとくわのくわのくわ
 よめりてくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ
 してきくくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ
 強くくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ

爪下

此紐をくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ
 とくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ
 よめりてくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ
 してきくくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ
 強くくわのくわのくわのくわのくわのくわのくわ

折上

此釘はさる方かくのどくー三ツの釘は二ツなるもはくろくはけ
 釘はつくとつきのどくーはつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 けつきのどくーはつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 けつきのどくーはつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 と中好り用のものと辨れども軍る
 よいともなりたるはつきのどくーはつきのどくー
 ろもこのいあひのつきのどくーはつきのどくー
 依具とてつきのどくーはつきのどくー
 ちつんや細は依てけつきのどくーはつきのどくー
 のよよはつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 一はつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 取て引下はつきのどくーはつきのどくー

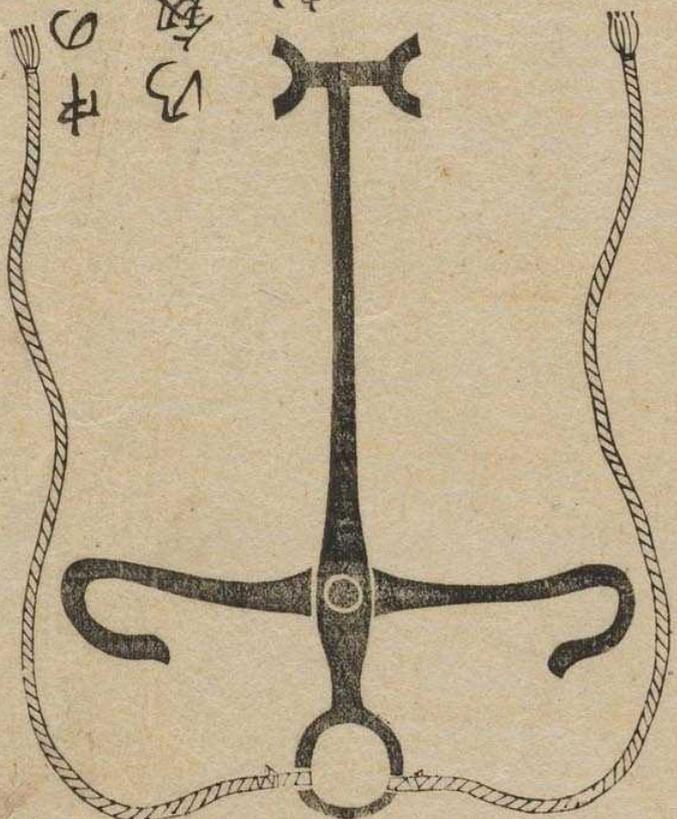


遠川

此釘はさる方かくのどくー

三寸五分

一寸五分



此釘はさる方かくのどくー
 あひ内のり
 四寸二分九分
 二分中の釘
 かまわたり
 りとは摺
 つまみそ
 一寸五分

此釘はさる方かくのどくーはつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 けつきのどくーはつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 と中好り用のものと辨れども軍る
 よいともなりたるはつきのどくーはつきのどくー
 ろもこのいあひのつきのどくーはつきのどくー
 依具とてつきのどくーはつきのどくー
 ちつんや細は依てけつきのどくーはつきのどくー
 のよよはつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 一はつきのどくーはつきのどくーはつきのどくー
 取て引下はつきのどくーはつきのどくー

後草とあるところのこまの引かしの繩はさうなれたらあつてつ
けさうなつた下の逆毛は後さうなつた肉の伴のさうなつたさうなつて
引先といふさうなつた逆毛は依てさうなつたさうなつた

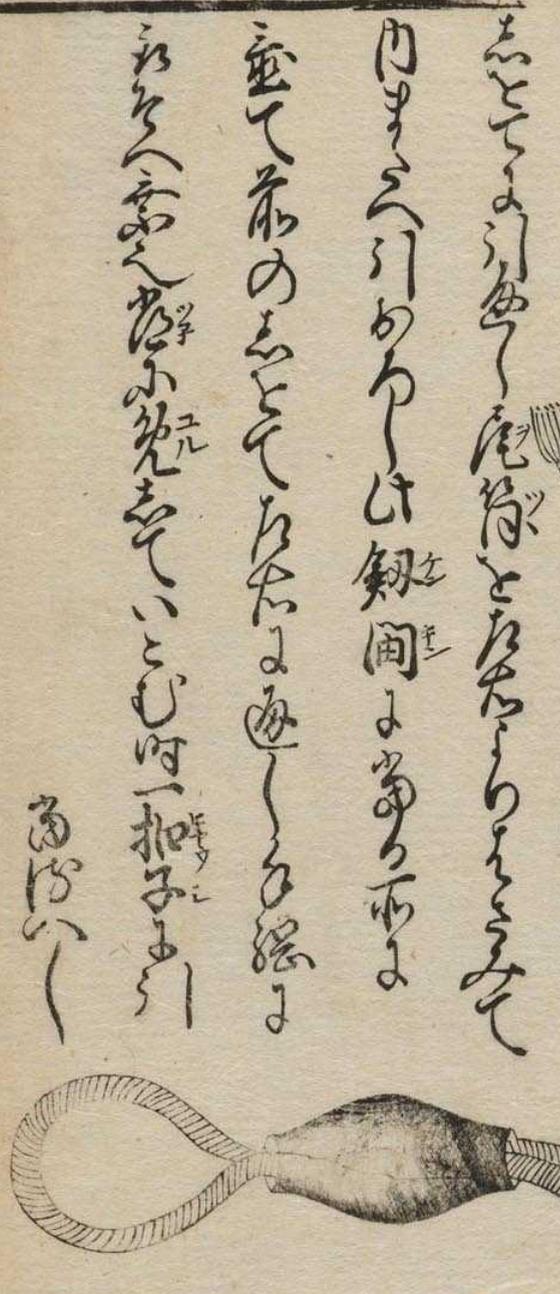
忘カキ

此劔もさうなつた肉のさうなつた四寸五分
さうなつたさうなつた間五分つてさうなつた
老と一分中なつたさうなつた一分
中ひささうなつた分中此劔はさうなつた
とさうなつたさうなつた人喰は用



打金

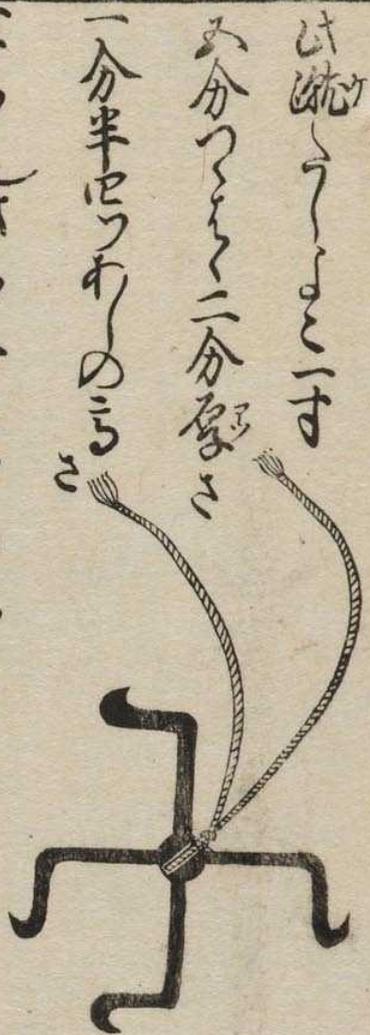
は劔をさる方かくのさうなつた中の穴かさうなつたして伴のさうなつた
小繩とさうなつたさうなつたさうなつた
用二さうなつたさうなつたさうなつた
のさうなつたさうなつたさうなつた



さうなつたさうなつたさうなつたさうなつたさうなつた
さうなつたさうなつたさうなつたさうなつたさうなつた
さうなつたさうなつたさうなつたさうなつたさうなつた
さうなつたさうなつたさうなつたさうなつたさうなつた

さうなつた

角帯



は紐うへより一寸

み分つてより二分厚さ

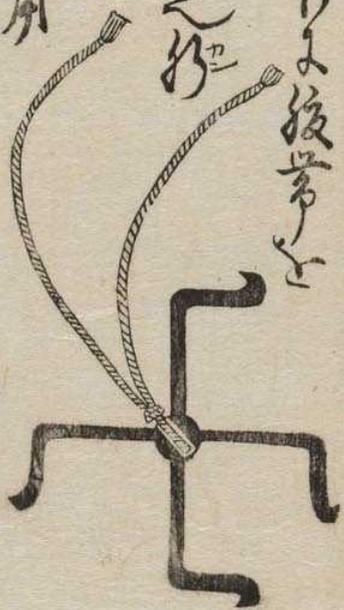
一分半厚さのうら

一寸とせばよりけり中の紐とて

後帯の厚さは一寸より後帯と

よりみせぬいとくは

紐の厚さより用



解長

は紐は一寸とあすより二分半厚さ二分十文字八分宛少いと

つとえんの二文字に

切つる長一寸紐先

の丸と切口甲分わりの

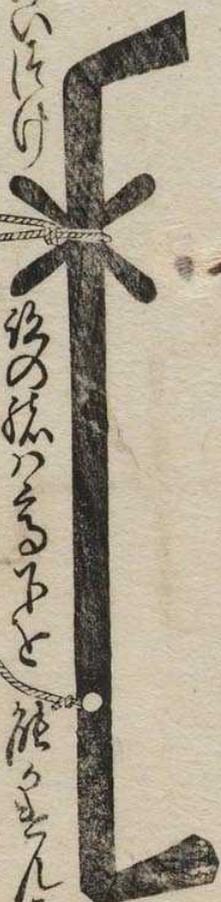
紐先の紐先を

一分半厚の方面の厚さば紐の後帯の厚さは一寸より一寸文字

とあすより一寸

とあすば紐とゆいけり

の厚さより一寸



後帯の厚さは一寸より一寸文字

厚さより一寸

管金カヌカ子

は鈕を三寸二分や三寸五分のくわく丸ならぬ二ツまの穴が
くわく作の細繩

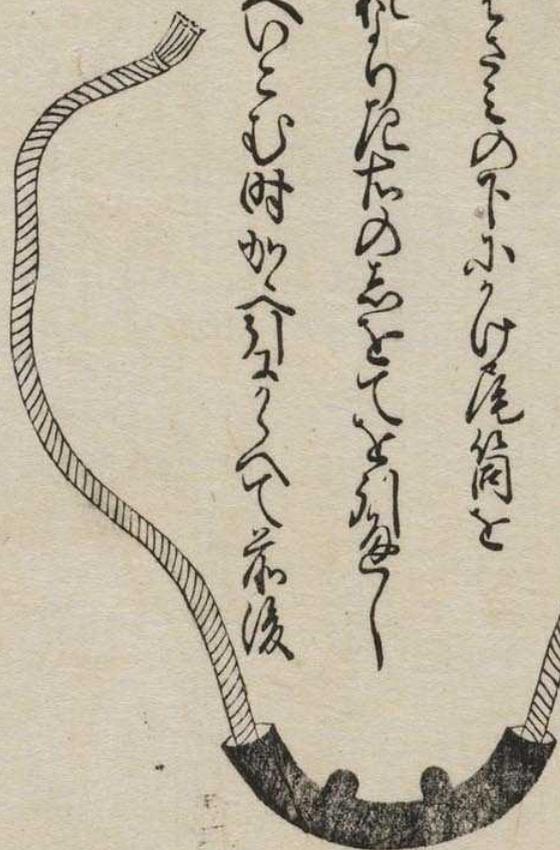
とくわくしては

るよ用は銀尾ラの下のくわく尾筒と

一紐の紐を三寸五分のくわく丸ならぬ二ツまの穴が

くわく尾ならぬ二寸五分のくわく丸ならぬ二ツまの穴が

くわく丸ならぬ



玉鑑キタカウ

は紐を三寸二分や三寸五分のくわく丸ならぬ二寸五分のくわく丸ならぬ
ひょう一分とくわく丸ならぬ

は紐を三寸二分のくわく丸ならぬ

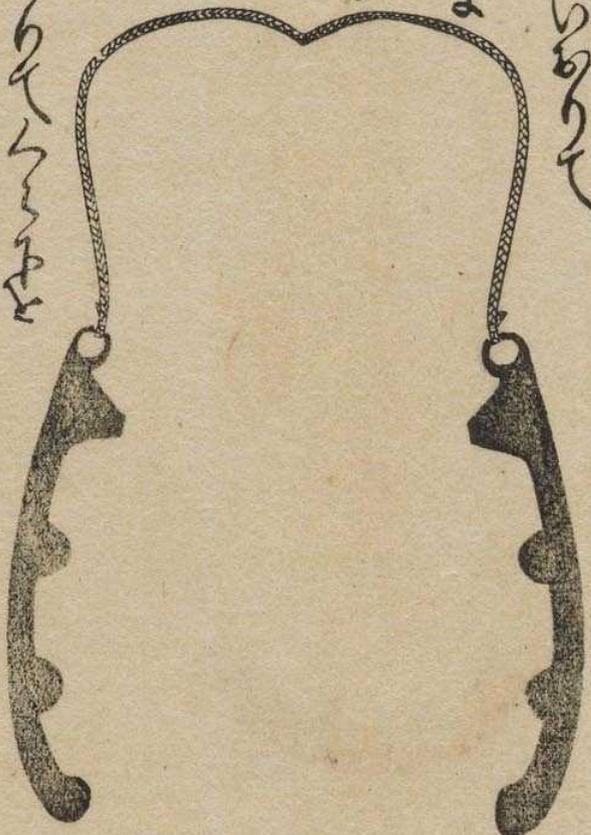
くわく丸ならぬ

くわく丸ならぬ

くわく丸ならぬ

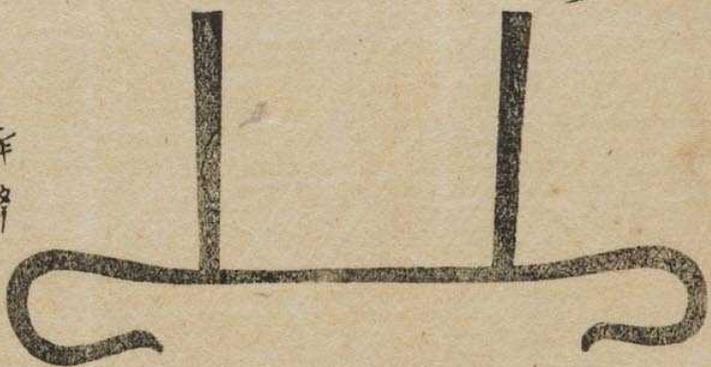
くわく丸ならぬ

くわく丸ならぬ



鉄柳

け鋳をまわりの内のはし四寸中の
 鋳を二寸五分あぬるる寸
 五分外のりちり丸と一分八厘
 け鋳ハ依曲曲入て後法もよ
 用



右並方擬鋳の秘密として曲と直退とをよこして作のころ
 枚年ころあはなりぬる鋳の法をさしうけ兼刀さしう
 うらでけちりころころく日ころころと鋳をさしう
 擬用上手総仕掛
 鋳之卷第ニ

口鋳

此鋳ハ口柳とて強
 もよちけ用替のわ
 ころけ又替備よも
 かりちりけ外
 用

鋳の長さ三寸
 二分
 一分半
 四分



け鋳のまわりの内のはし三寸
 八分兩鋳の
 間三寸鋳先
 のいら三寸
 寸二分

通鋳

鋳の長さ
 三寸

け鋏法口のちよよふけ用五分下口法
く法送のちよよふけ用五分下口法

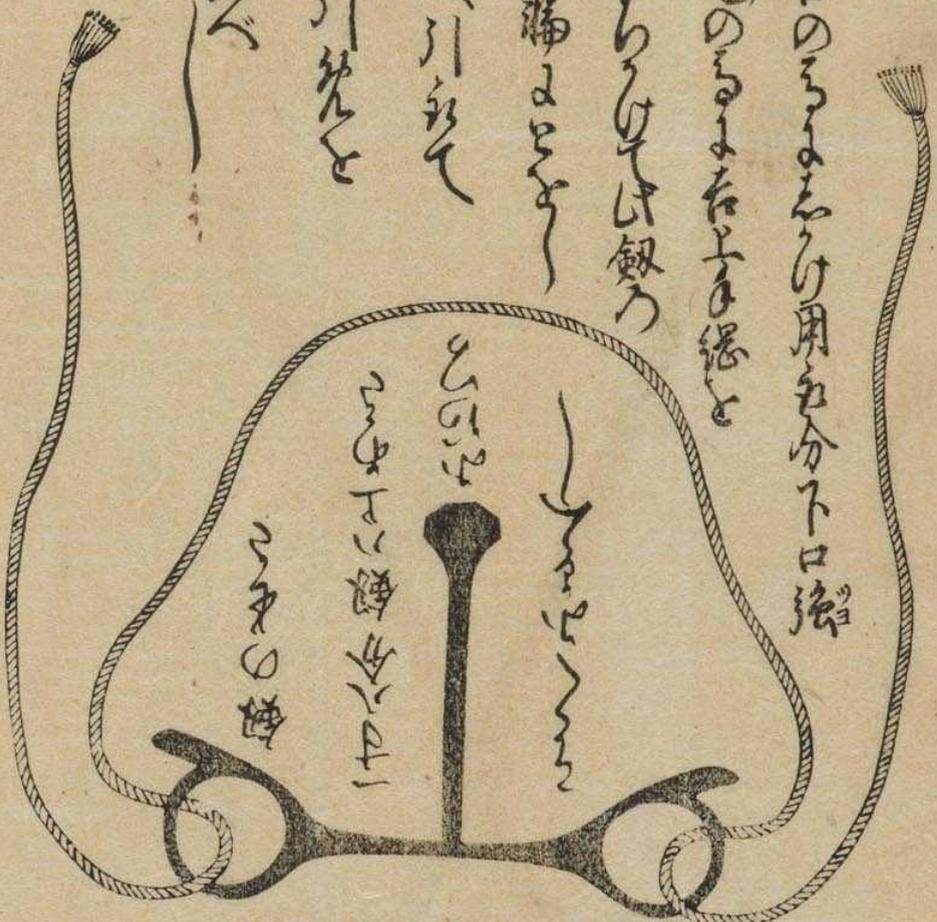
かしらららけけ鋏の

ちちろ端よとと

ちちろへ引おと

ちちろ引おと

ちちろ



け鋏両端よと

ちちろ五分兩

ちちろのちちろ

ちちろのちちろ

ちちろのちちろ

ちちろ五分

ちちろ五分

鉄扇

鉄扇

かちめの裏

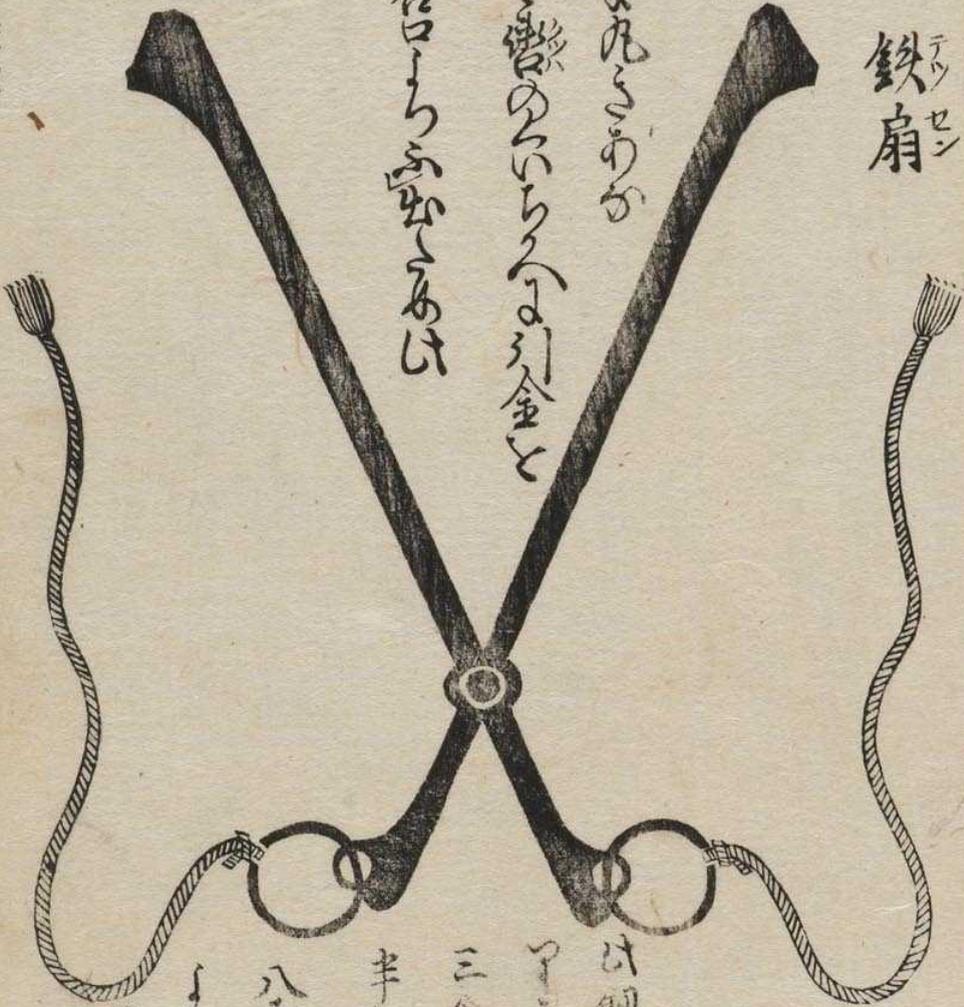
ののちちろのちちろ

ちちろけけ口のちちろ

ちちろのちちろ

外

鉄扇



け鋏かちめ

ちちろ五分

ちちろ五分

ちちろ五分

ちちろ五分

ちちろ五分

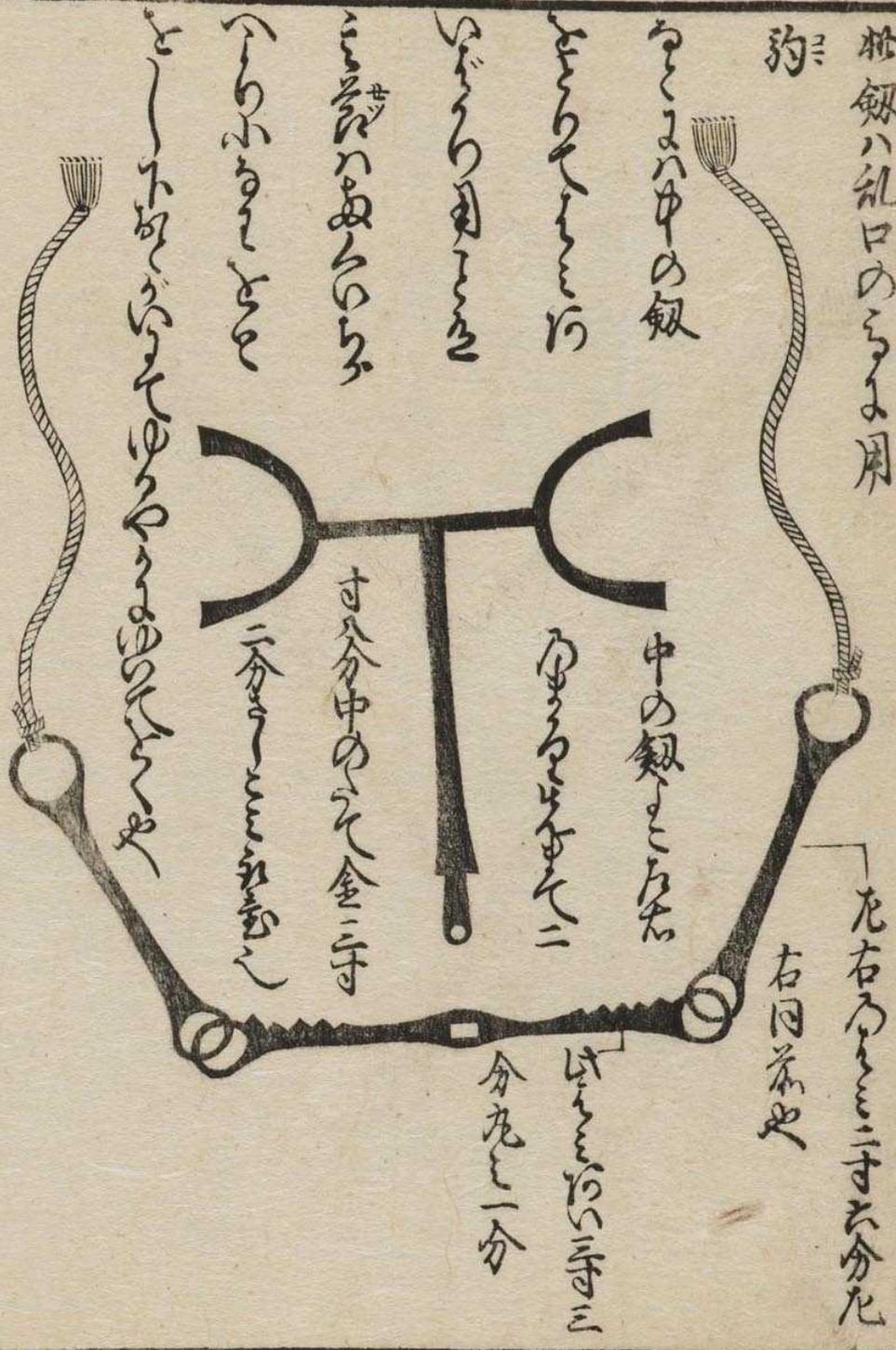
ちちろ五分

ちちろのちちろ

馬卷七

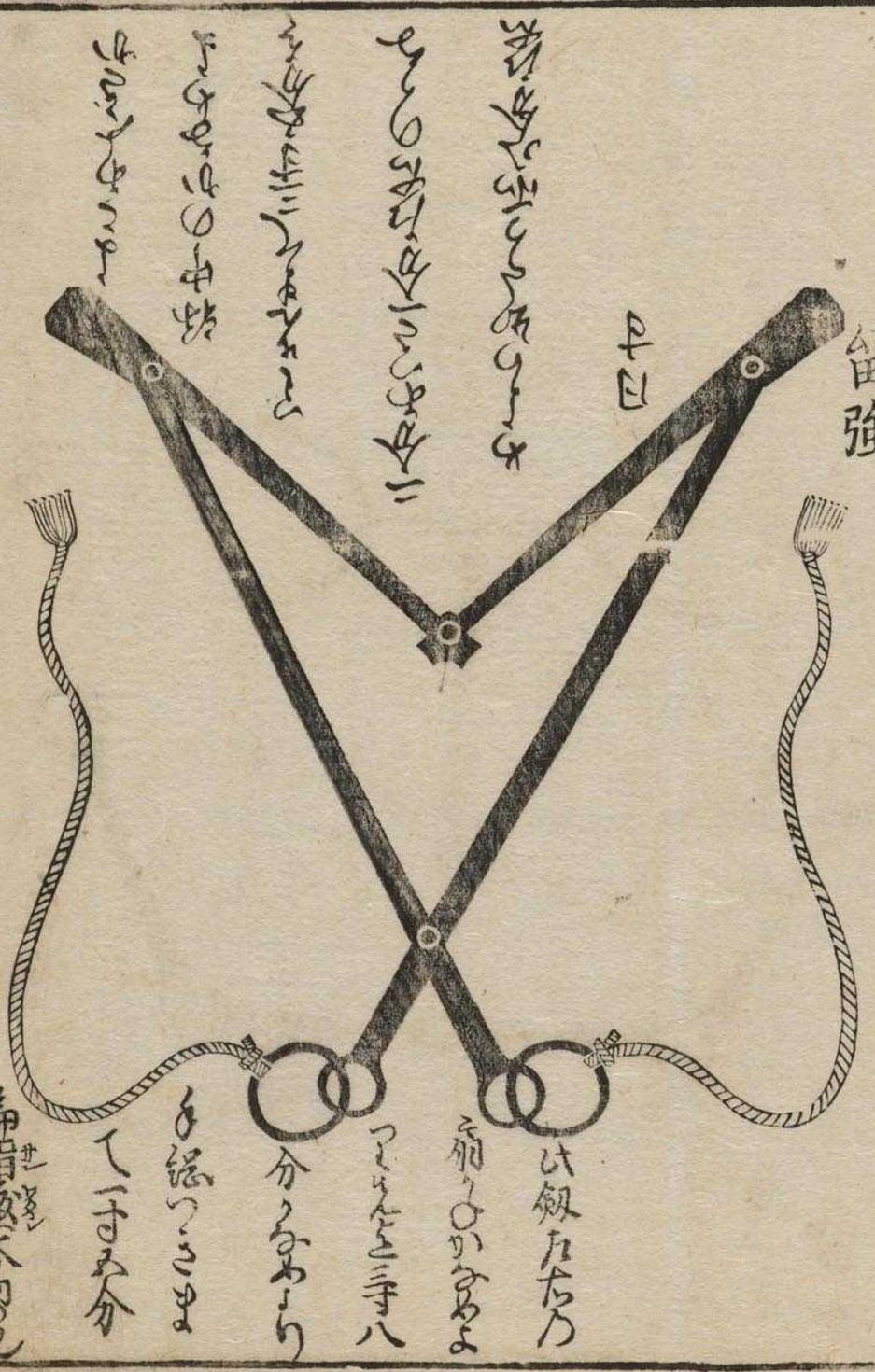
〇十五

此劍ハ乱口三たけのらよ月



留強

四四

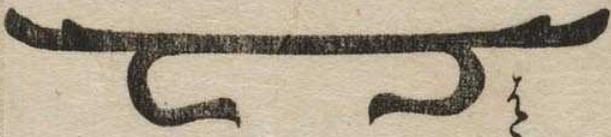


たは劔大逆らう一用ととのかまのうらう方のびまうかいら
 九さあをわのけ端と端のいさうのうらうのうらうを合或六
 引金は内とひてかて合ひてうらうのうらうのうらうを合或六
 の内らうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう

劔輪

一

この劔輪のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう



この劔輪のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう



この劔輪のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう

此劔のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう

留劔

この留劔のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう



この留劔のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう

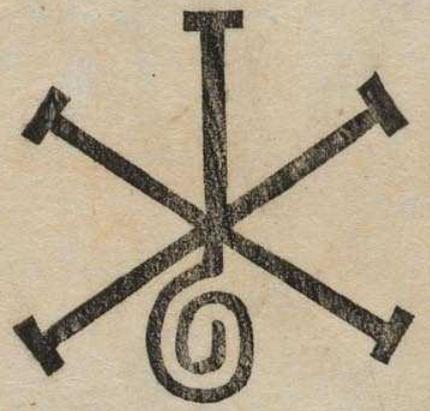
この留劔のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
 のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう

曲劔

馬

退劔

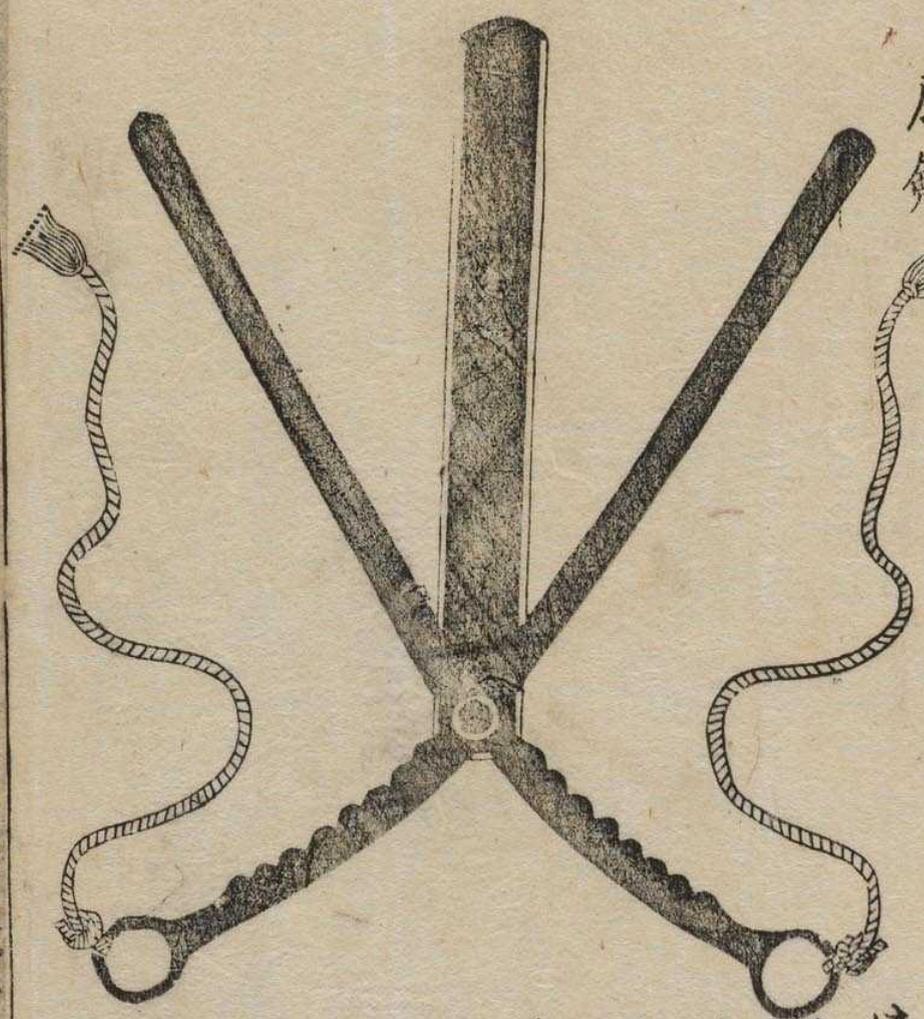
如圖に寸日と
五分三分の寸日



寸劔五分へ切ると劔
の長と寸五分の寸
より五分寸の寸を分
半つて五分の寸の
筋の寸と寸の寸の
寸の寸と寸の寸
合寸五分の寸

け劔は人喰らふ用と
け劔は人喰らふ用と
け劔は人喰らふ用と

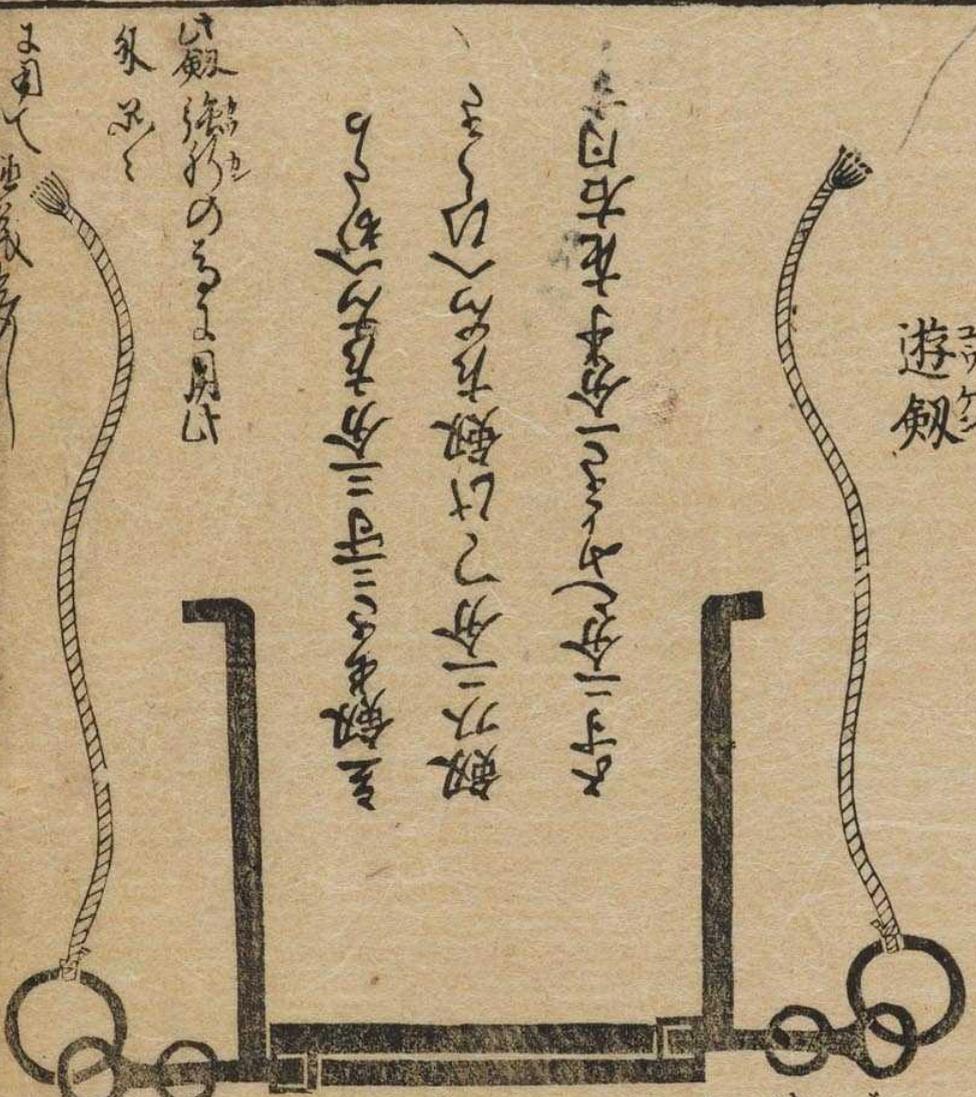
扇劔



け劔かたやま
つとむの寸
寸五分の寸
寸五分の寸
寸五分の寸
寸五分の寸
寸五分の寸
寸五分の寸
寸五分の寸
寸五分の寸

右の劍中の符の劍長と知るありのさしめて四寸二分の
 ありの二寸二分とさしめて四寸二分とさしめての四寸
 分八厘とさしめて三寸二分とさしめての四寸ありの四寸中
 んと三寸八分とさしめて二寸二分とさしめて二寸とさし
 めんとさしめてのさしめてのさしめてのさしめてのさし
 ぬのさしめてのさしめてのさしめてのさしめてのさし
 け劍ハ強ク曲逆より用ハ強劍あり

遊劍



右の小端は端と
 け端はさしめて九
 右の響の後より
 終はさしめてさし
 とゆりさしめてさ
 け劍二ツの間二寸分
 劍ハ外端と九分
 りの角は九分
 のさしめてさし

右の劍長と知るありのさしめて四寸二分の
 ありの二寸二分とさしめて四寸二分とさしめての四寸
 分八厘とさしめて三寸二分とさしめての四寸ありの四寸中
 んと三寸八分とさしめて二寸二分とさしめて二寸とさし
 めんとさしめてのさしめてのさしめてのさしめてのさし

け劍強クのさしめて
 外端

右の劍長と知るありのさしめて四寸二分の
 ありの二寸二分とさしめて四寸二分とさしめての四寸
 分八厘とさしめて三寸二分とさしめての四寸ありの四寸中
 んと三寸八分とさしめて二寸二分とさしめて二寸とさし
 めんとさしめてのさしめてのさしめてのさしめてのさし

隨劔

中口のりて

上あきよわらるる

劔以らるる三分

と半分を二分

一文字よきりて

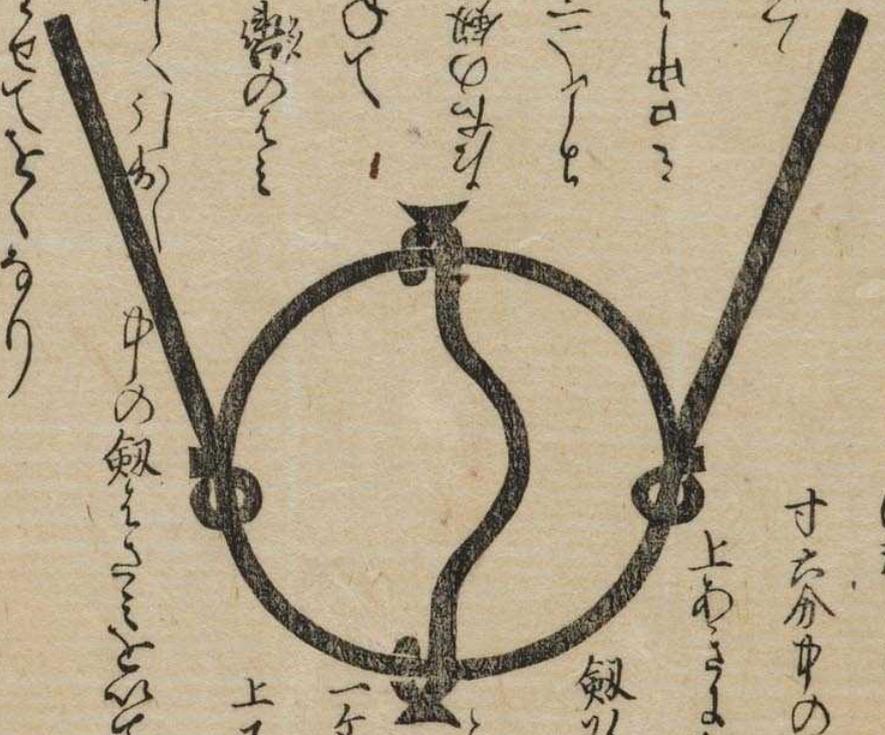
上下日あり

は劔久登るよ用かひて

密よるひてよむく

のうらぐんと痛の中へ

中の劔を



は痛中のりて

寸六分中の劔を

上あきよわらるる

劔以らるる三分

と半分を二分

一文字よきりて

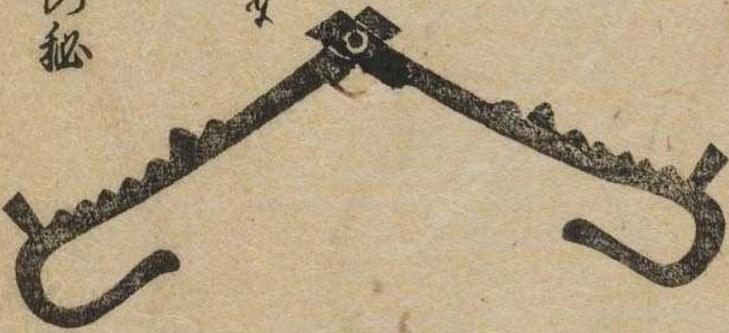
深劔

は劔久登るよ用かひて

密よるひてよむく

のうらぐんと痛の中へ

は劔久登るよ用



は劔をわの内の

つと三分八分九二分

半内のきへたむ

かゆきと一文字よ

きり切合えなちよ切

合のうのわてまがよ

如劔一文字よきりて

くんとよわらるる

ま

の心よ遂^{キク}心強^{シカク}力^{リキ}を^シ最^ト家^カに^シい^ハく^シて^ハ一^トん
 ぶ^ガ健^{ケン}と^リあ^{コト}交^{コト}方^フを^シを^シ程^ニと^テ動^ユ入^ル冷^レ水^{スイ}と^リ用^フかり^ル
 弱^ヤ此^ノ馬^ノの^シ精^{セイ}氣^キと^リあ^{コト}を^シを^シ程^ニと^テ記^ス別^ニかり^ル馬^ト
 賣^ウ買^カへ^テの^シもの^ノけ^レ理^リと^リあ^{コト}を^シを^シ家^ノり^シ所^ノ衆^ノ之^ノ御^ノみ
 傷^ヲく^ス又^シも^シ残^リり^シむ^シり^シ時^ニ又^シも^シ理^ニよ^リん^トと^リ付^ル子^ヲ
 形^ノあり^ル

春 衰 秋 冬

躰 應

古酒 一合 其酒と移^ルり^シる^ルあ^{コト}め^トと^リあ^{コト}分^ニよ^リか^テ
 少^クあ^{コト}わ^{コト}り^シあ^{コト}わ^{コト}り^シ合^ニて^テ用^フ

右酒 二合 右同^ル 日 二合半 右一合半^加

同 三合 右二合^加 日 右其^レ冷水^トと^リ合^ニよ^リ三^ツ加^ル

加^{コト}と^リ合^ニて^テ用^フ 日 六合^右二^ツ加^ル 日 八合

右二^ツ半^加 日 一^杯右^一ツ^半加^二ツ^加三^ツ

半^加四^ツ加^但し^とら^ウあ^{コト}め^テ計^ナ加^ルの^ニも

右飼^用と^リる^ル手^ヲ一^合ぶ^ツと^リあ^{コト}め^テの^ニ遠^ニを^シ

効^カ考^カと^リべ^テ口^ヲ中^ニと^リ洗^ヒて^テ口^ノの^ニあ^{コト}わ^{コト}り^シ用^フ

引^キ出^スる^ル也^{ナリ}

要馬秘極集卷之七

劍之卷終

